

国際芸術祭「あいち 2022」 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

2022 年 4 月

国際芸術祭「あいち」組織委員会

はじめに

国際芸術祭「あいち2022」の開催に当たっては、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」及び「愛知県新型コロナウイルス感染拡大予防対策指針(2020年5月)」、「名古屋市新型コロナウイルス感染予防対策業種別ガイドライン」「一宮市新型コロナウイルス感染症対策サイト」「常滑市感染予防対策の大原則」を基本的な指針として、業種毎に策定される感染拡大予防ガイドライン等に基づく適切な感染症対策を実施します。

また、内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室の「イベント開催等における感染防止安全計画等について(改定その3)」を踏まえ、飛沫の抑制の徹底、手洗、手指・施設消毒の徹底、換気の実施、来場者の密集回避等をはじめとした対応を徹底します。

特に、まちなかに点在する会場であることを十分踏まえ、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、地元市や関係団体等とも連携して、必要な対策を講じていきます。

これらの対策を確実に実施し、来場する皆様に安心して芸術祭を楽しんでいただけるよう、基本的な感染症対策やケース別(作品の鑑賞、インフォメーション、チケット販売、オフィシャルグッズショップ等)の対応、来場者の検温及び体調確認、地域における感染症対策、感染状況を踏まえた芸術祭の開催の考え方等について、次のとおり指針を策定します。

なお、今後、政府や愛知県、名古屋市、一宮市、常滑市の対処方針等が更新された場合は、適宜対策の見直しを行います。

また、本指針に基づき、運営マニュアルを作成し、関係者間で共有して、感染症対策を徹底します。

《目次》

1. 基本的な感染症対策について

(1) 基本的な対策(共通事項)	2
(2) 有症状者の発生時の対応等	3

2. ケース別の対応について

(1) 作品の鑑賞	4
(2) インフォメーション及びチケット販売	5
(3) オフィシャルグッズショップ	6
(4) ガイドツアー(展示作品解説等)	7
(5) パフォーミングアーツ	8
(6) ワークショップ・トークイベント	9
(7) 託児室の運営	10
(8) 障害のある方への対応	11

3. 感染状況を踏まえた芸術祭の開催の考え方について

(1) 通常時	12
(2) まん延防止等重点措置時	12
(3) 緊急事態宣言時	12

1. 基本的な感染症対策について

国の感染防止策チェックリストの内容等を踏まえ、基本的な感染症対策として、次の対策を実施する。

(1) 基本的な対策(共通事項)

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ マスク(不織布を推奨)の正しい着用を周知・徹底する。
- ・ 咳エチケットの実践、大声を出さないことを周知する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す。
- ・ 会場出入口等に手指消毒液を設置する。
- ・ 施設内(出入口、トイレ、共用部等)の定期的かつこまめな消毒を実施する。

ウ) 換気の実施

- ・ 空調設備の設置等による常時換気又はこまめな換気を実施する。

エ) 来場者間の密集回避

- ・ 大声を伴わない場合には、人と人が触れ合わない間隔を確保する。
- ・ 大声を伴う可能性がある場合には、前後左右に身体的距離を確保する。
- ・ 休憩・整列場所での密集を回避するための人員配置や動線確保等の体制を構築する。
- ・ サイン看板等を活用して周知を行うなど、接触機会の低減を図る。

オ) 来場者の制限等

- ・ 来場者の検温等を行い、有症状者(37.5℃以上の発熱又は風邪等の症状を呈する者)には入場をお断りする。
- ・ 有症状者は入場できないことや、体調不良時には来場を控えることなどを、公式ウェブサイト等で周知する。

カ) スタッフの感染症対策等

- ・ 準備段階からスタッフの感染症対策(マスクの着用、手洗・手指消毒の徹底、換気の実施、密集回避等)及び健康管理(毎朝の検温及び体調確認、体調不良時の自宅待機や保健所等への相談、医療機関の受診の要請等)を徹底する。
- ・ 飲食時の感染防止策を徹底する。
- ・ 飲食中以外のマスク着用の徹底を呼びかける。

1. 基本的な感染症対策について

(2) 有症状者の発生時の対応等

有症状者(37.5 度以上の発熱又は風邪等の症状を呈する者)の発生時に備えて、次のとおり対策を講じる。

ア) 救護スペースの確保

- ・ 各会場において有症状者が他の来場者等から離れて休憩や待機ができるスペースを確保する。

イ) 医療従事者への相談体制

- ・ 愛知芸術文化センターの救護室および各まちなか会場のインフォメーション等に看護師を 1 名常時配置し、有症状者とのやり取りや現地のスタッフへの指示等を行えるようにする。

ウ) 救急搬送(症状が重い場合)

- ・ 看護師等の意見も踏まえた上で、必要に応じて救急車を要請することも含めて、密にならない状態で移動できる対策を講じる。

エ) 救急外搬送(症状が軽い場合)

- ・ 看護師等の意見も踏まえた上で、必要に応じて救護室もしくは救護所へ密にならない状態で移動できる対策を講じる。

オ) 消毒の徹底

- ・ 来場者の検温に使用する体温計等、複数のスタッフが頻繁に触れることを想定し、定期的かつこまめな消毒を実施し、必要に応じて使い捨てゴム手袋等を着用する。

カ) 感染確認時の対応

- ・ 各会場において新型コロナウイルスの感染が確認された場合は、保健所の指示等に従って適切に対応するとともに、必要に応じて公式ホームページに掲載、公表する。

2. ケース別の対応について

「1. 基本的な感染症対策について」に加えて、業種毎に策定される感染拡大予防ガイドライン(該当する業種において策定されている場合)を参考にして、次のケース別に必要な対策を実施する。

(1) 作品の鑑賞

【対象】

国際芸術祭「あいち 2022」の作品及び施設

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(公益財団法人日本博物館協会)
- ・ 劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(公益社団法人全国公立文化施設協会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 展示施設内での会話の制限を行い、大声を出す者がいた場合は、個別に注意等を行う。
- ・ 受付等では、アクリル板やフェイスシールド等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 来場者が直接手で触れることを想定した屋内の展示物等の定期的かつ来場者数等に応じた消毒を実施する。
- ・ 来場者自身でも消毒が出来るよう、展示物近辺等に手指消毒液を設置して利用を促す。

ウ) 換気の実施

- ・ 展示施設の状況に応じて、二酸化炭素モニターやサーキュレーター、空気循環式紫外線清浄機を使用する。

エ) 来場者間の密集回避

- ・ 作品及び展示施設の状況に応じて、人数制限を設ける。
- ・ フロアマーカの設置等の工夫を行い、来場者同士の間隔を確保する。
- ・ サイン看板等により、特定の作品等で大勢の来場者が滞留しないための措置を講じる。

オ) スタッフの感染症対策等

- ・ ボランティアの感染症対策(マスクの着用、手洗・手指消毒の徹底、換気の実施、密集回避等)及び健康管理(毎朝の検温及び体調確認、体調不良時の自宅待機や保健所等への相談実施、医療機関の受診の要請等)を徹底する。

カ) その他

- ・ 来場者の手が触れる場を最低限にする。
- ・ パンフレット等の配布物は据置きを原則とする。
- ・ 作品及び展示施設の清掃を徹底する。
- ・ 受付のない屋外作品については、公式ウェブサイト等で基本的な感染症対策に関する注意喚起等を行う。
- ・ 必要に応じて、展示施設の入場制限の強化等の対策を行う。

2. ケース別の対応について

(2) インフォメーション及びチケット販売

【対象】

国際芸術祭「あいち」組織委員会が設置・運営する全てのインフォメーション及びチケット販売所

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 展示会業界における COVID19 感染拡大予防ガイドライン(一般社団法人日本展示会協会)
- ・ オフィスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン(一般社団法人 日本経済団体連合会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 受付等では、アクリル板やフェイスシールド等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ テーブルや椅子、コイントレー等の定期的かつこまめな消毒を実施する。

ウ) 換気の実施

- ・ インフォメーション内の換気に加え、オープンスペースでの来場者対応等の対策を講じる。

エ) 来場者間の密集回避

- ・ インフォメーションが混み合う場合は、人数制限を設ける。
- ・ フロアマーカ―の設置等の工夫を行い、来場者同士の間隔を確保する。

オ) その他

- ・ 来場者に対してキャッシュレス決済の利用を推奨する。
- ・ 来場者の手が触れる場を最低限にする。
- ・ パンフレット等の配布物は据置きを原則とする。
- ・ 現金等の受渡しは、コイントレー等の使用を原則とする。
- ・ 研修等を通じて、感染症対策に関するスタッフの理解や意識の向上を図る。
- ・ 施設の清掃を徹底する。
- ・ 仕入先等の事業者に対しても、感染症対策やスタッフの健康管理の取組みを促す。

2. ケース別の対応について

(3) オフィシャルグッズショップ

【対象】

国際芸術祭「あいち」組織委員会が設置する現代美術展会場内の公式ショップ

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 小売業の店舗における新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン(一般社団法人全国スーパーマーケット協会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ レジ等では、アクリル板やフェイスシールド等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 買物かごやコイントレー等の定期的かつこまめな消毒を実施する。

ウ) 来場者間の密集回避

- ・ ショップが混み合う場合は、人数制限を設ける。
- ・ フロアマーカの設置等の工夫を行い、来場者同士の間隔を確保する。

エ) その他

- ・ 来場者に対してキャッシュレス決済の利用を推奨する。
- ・ 来場者の手が触れる場を最低限にする。
- ・ パンフレット等の配布物は据置きを原則とする。
- ・ 現金等の受渡しは、コイントレー等の使用を原則とする。
- ・ 研修等を通じて、感染症対策に関するスタッフの理解や意識の向上を図る。
- ・ 施設の清掃を徹底する。
- ・ 仕入先等の事業者に対しても、感染症対策やスタッフの健康管理の取組みを促す。
- ・ 来場者や他のスタッフとの間隔を確保できるよう、バックヤードも含めたスタッフの動線を点検する。
- ・ 事前の買物リストの作成等により滞留時間を短縮することなどを、公式ウェブサイト等で周知する。
- ・ 多くの来場者が触れることを想定した見本品等は置かない。
- ・ 混雑に繋がるような販売促進策は自粛する。

2. ケース別の対応について

(4) ガイドツアー(展示作品解説等)

【対象】

国際芸術祭「あいち」組織委員会が実施する全てのガイドツアー

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン(一般社団法人日本旅行業協会、一般社団法人全国旅行業協会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 大声を出す者がいた場合は、個別に注意等を行う。
- ・ 受付等では、アクリル板等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 受付カウンターや備え置きの筆記具等の定期的かつこまめな消毒を実施する。

ウ) 参加者間の密集回避

- ・ 混雑が予想される場所では、参加者を小グループに分けて、時間差で展示施設等に入場してもらうなどの工夫を行う。

エ) 参加者の制限等

- ・ 有症状者は参加できないことを、事前に周知する。
- ・ 出発前に参加者の検温及び体調確認を行い、有症状者には参加をお断りする。

オ) 参加者の把握

- ・ 参加申込時に、参加者の連絡先(氏名及び電話番号)を把握する。

カ) スタッフの感染症対策等

- ・ ガイドの感染症対策(マスクの着用、手洗・手指消毒の徹底、換気の実施、密集回避等)及び健康管理(毎朝の検温及び体調確認、体調不良時の自宅待機や保健所等への相談実施、医療機関の受診の要請等)を徹底する。

キ) その他

- ・ 研修等を通じて、感染症対策に関するスタッフの理解や意識の向上を図る。
- ・ ガイドツアー中のスタッフが体調不良となった場合に備えて、代替要員の派遣等の対策を予め準備する。

2. ケース別の対応について

(5) パフォーミングアーツ

【対象】

国際芸術祭「あいち」組織委員会が実施する全てのパフォーミングアーツ

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(公益社団法人全国公立文化施設協会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 施設内での会話の制限を行い、大声を出す者がいた場合は、個別に注意等を行う。
- ・ 受付等では、アクリル板等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 来場者が直接手で触れることを想定したヘッドホン等のこまめな消毒を実施する。

ウ) 換気の実施

- ・ 空調設備の設置等による常時換気又はこまめな換気を実施する。

エ) 来場者間の密集回避

- ・ 施設の状態に応じて、来場者同士の間隔を確保する。

オ) 来場者の制限等

- ・ 有症状者は施設に入場できないことや、体調不良時には来場を控えることなどを掲示して、来場者に呼びかける。

カ) スタッフの感染症対策等

- ・ ボランティアの感染症対策(マスクの着用、手洗・手指消毒の徹底、換気の実施、密集回避等)及び健康管理(毎朝の検温及び体調確認、体調不良時の自宅待機や保健所等への相談、医療機関の受診の要請等)を徹底する。
- ・ リハーサル等の準備段階からスタッフの感染症対策(マスクの着用、手洗・手指消毒の徹底、換気の実施、密集回避等)及び健康管理(毎朝の検温及び体調確認、体調不良時の自宅待機や保健所等への相談、医療機関の受診の要請等)を徹底する。

キ) その他

- ・ 来場者の手が触れる場を最低限にする。
- ・ 現金等の受渡しは、コイントレー等の使用を原則とする。
- ・ 施設の清掃を徹底する。
- ・ 公演後の出待ちや面会等は控えるように注意喚起を行う。
- ・ 公演前後の交通機関の分散利用や飲食・会合の抑制等、施設外での感染防止についても注意喚起を行う。
- ・ 施設のルールに則り、配席や入退場時の対策を行う。

2. ケース別の対応について

(6) ワークショップ・トークイベント

【対象】

国際芸術祭「あいち」組織委員会が実施する全てのワークショップ

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(公益社団法人全国公立文化施設協会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 大声を出す者がいた場合は、個別に注意等を行う。
- ・ 受付等では、アクリル板等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。
- ・ 作業場所では、会話の制限を行い、必要に応じてアクリル板等により参加者同士の間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 複数の参加者が頻繁に触れる個所の定期的かつこまめな消毒を実施し、必要に応じて使い捨てゴム手袋等を着用する。
- ・ 来場者自身でも消毒が出来るよう、展示物近辺等に手指消毒液を設置して利用を促す。
- ・ 椅子等の定期的かつこまめな消毒を実施する。

ウ) 換気の実施

- ・ 作業場所でのこまめな換気を実施する。
- ・ 施設の状況に応じて、二酸化炭素モニターやサーキュレーター、空気循環式紫外線清浄機の使用を検討する。

エ) 参加者間の密集回避

- ・ 作業場所の状況に応じて、人数制限を設ける。
- ・ 参加者の休憩時間をずらすなどの工夫を行う。
- ・ 来場者の配席については、できるだけ間隔を空ける。

オ) 参加者の把握

- ・ 参加申込時に、参加者の連絡先(氏名及び電話番号)を把握する。

カ) 出演者の感染症対策等

- ・ イベントの開催前も含め、声を発出する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する。
- ・ 出演者やスタッフ等と観客がイベントの前後や休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる。

キ) その他

- ・ 参加者の手が触れる場を最低限にする。
- ・ 施設の清掃を徹底する。
- ・ 施設のルールに則り、配席や入退場時の対策を行う。
- ・ サイン看板等を掲出して、感染症対策に関する参加者への協力依頼事項等を周知する。
- ・ ワークショップ中のスタッフが体調不良となった場合に備えて、代替要員の確保等の対策を予め準備する。

2. ケース別の対応について

(7) 託児室の運営

【対象】

国際芸術祭「あいち」組織委員会が実施する託児室(愛知芸術文化センター内)

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック(全国保育園保健師看護師連絡会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 受付等では、アクリル板やフェイスシールド等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 受付カウンターやおもちゃ等の定期的かつこまめな消毒を実施する。
- ・ こまめな手洗いを心がける。

ウ) 換気の実施

- ・ 施設の状態に応じて、二酸化炭素モニターやサーキュレーター、空気循環式紫外線清浄機の使用を検討する。

エ) 利用者間の密集回避

- ・ 子ども同士の間隔は 1m 以上を目安とする。
- ・ 子ども同士の距離を保てる遊びの工夫を行う。
- ・ 一斉に大きな声を出すことや歌を歌うことなどは避ける。

オ) 利用者の制限等

- ・ 有症状者は利用できないことを、利用者に事前に周知するとともに、託児室の入口に掲示する。

カ) 利用者の把握

- ・ 利用申込時に、利用者の連絡先(氏名及び電話番号)を把握する。

キ) その他

- ・ 就学前の子どもにはマスク着用を一律には求めない。(熱中症予防にも最大限配慮する)
- ・ 布おもちゃは控える。
- ・ 利用者が少ない場合には出来る限り個別でおもちゃを使用する。

2. ケース別の対応について

(8) 障害のある方への対応

【対象】

国際芸術祭「あいち 2022」の作品を鑑賞する障害をお持ちの方への対応

【参考とする感染拡大予防ガイドライン】

- ・ 劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(公益社団法人全国公立文化施設協会)

【基本的な感染症対策に加えて実施する対策】

ア) 飛沫の抑制の徹底

- ・ 受付等では、アクリル板やフェイスシールド等により来場者とスタッフとの間を遮蔽する。

イ) 手洗、手指・施設消毒の徹底

- ・ 車いすで来場された方等が手指の消毒を容易に行えるよう、消毒液を置くスタンドの高さ調整等の配慮をする。
- ・ 観賞用タブレット等の定期的かつこまめな消毒を実施する。

ウ) 換気の実施

- ・ オープンスペースでの対応等の対策を講じる。

エ) 来場者間の密集回避

- ・ フロアマーカの設置等の工夫を行い、来場者同士の間隔を確保する。

オ) その他

- ・ 研修等を通じて、感染症対策に関するスタッフの理解や意識の向上を図る。

3. 感染状況を踏まえた芸術祭の開催の考え方について

(1) 通常時

本指針に基づく対策を実施して開催する。

(2) まん延防止等重点措置時

会場の各市がまん延防止等重点措置の対象地域になった場合は、本指針に基づく対策をより徹底しながら開催する。

(3) 緊急事態宣言時

愛知県が緊急事態宣言の対象地域になった場合は、関係各所の意見を踏まえて、対応を検討する。